

遺伝カウンセリングの最前線

② 周産期領域

北大病院臨床遺伝子診療部

小島崇史

山田崇弘

柴田有花 (産科)

産科婦人科学会の定める「出生前に行われる遺伝学的検査および診断に関する見解」を遵守して実施。ここでは、染色体疾患を中心とした出生前診断の遺伝カウンセリング（うち初回カウンセリングは月50件程度）を

「出生前に存在となく、周産期領域で2500組のクライエントに対して遺伝カウンセリングを実施し、特に母体血中胎児DNAを用いた無侵襲的出生前診断の意義と、検査の位置付けやその結果の解釈に至るまで

「出生前診断」が避けるべき存在となく、周産期領域で2500組のクライエントに対して遺伝カウンセリングを実施し、特に母体血中胎児DNAを用いた無侵襲的出生前診断の意義と、検査の位置付けやその結果の解釈に至るまで

「出生前診断」が避けるべき存在となく、周産期領域で2500組のクライエントに対して遺伝カウンセリングを実施し、特に母体血中胎児DNAを用いた無侵襲的出生前診断の意義と、検査の位置付けやその結果の解釈に至るまで

「出生前診断」が避けるべき存在となく、周産期領域で2500組のクライエントに対して遺伝カウンセリングを実施し、特に母体血中胎児DNAを用いた無侵襲的出生前診断の意義と、検査の位置付けやその結果の解釈に至るまで

「出生前診断」が避けるべき存在となく、周産期領域で2500組のクライエントに対して遺伝カウンセリングを実施し、特に母体血中胎児DNAを用いた無侵襲的出生前診断の意義と、検査の位置付けやその結果の解釈に至るまで

「出生前診断」が避けるべき存在となく、周産期領域で2500組のクライエントに対して遺伝カウンセリングを実施し、特に母体血中胎児DNAを用いた無侵襲的出生前診断の意義と、検査の位置付けやその結果の解釈に至るまで

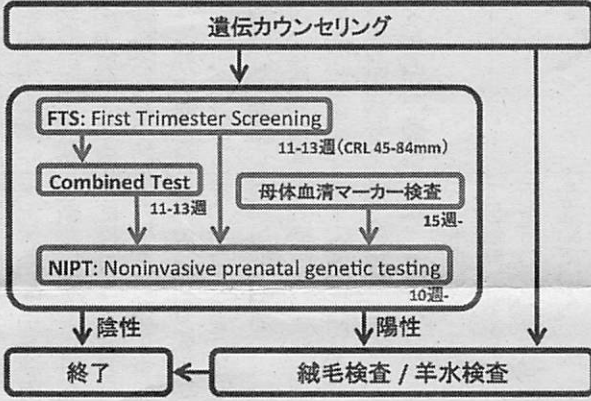
「出生前診断」が避けるべき存在となく、周産期領域で2500組のクライエントに対して遺伝カウンセリングを実施し、特に母体血中胎児DNAを用いた無侵襲的出生前診断の意義と、検査の位置付けやその結果の解釈に至るまで

「出生前診断」が避けるべき存在となく、周産期領域で2500組のクライエントに対して遺伝カウンセリングを実施し、特に母体血中胎児DNAを用いた無侵襲的出生前診断の意義と、検査の位置付けやその結果の解釈に至るまで

「出生前診断」が避けるべき存在となく、周産期領域で2500組のクライエントに対して遺伝カウンセリングを実施し、特に母体血中胎児DNAを用いた無侵襲的出生前診断の意義と、検査の位置付けやその結果の解釈に至るまで

「出生前診断」が避けるべき存在となく、周産期領域で2500組のクライエントに対して遺伝カウンセリングを実施し、特に母体血中胎児DNAを用いた無侵襲的出生前診断の意義と、検査の位置付けやその結果の解釈に至るまで

当院における出生前染色体検査の流れ



「出生前診断」が避けるべき存在となく、周産期領域で2500組のクライエントに対して遺伝カウンセリングを実施し、特に母体血中胎児DNAを用いた無侵襲的出生前診断の意義と、検査の位置付けやその結果の解釈に至るまで